

令和6年度 第3回かながわコミュニティカレッジ運営委員会 会議録

○開催日時：令和7年2月27日（木）13時00分～17時00分

○開催場所：かながわコミュニティカレッジ講義室1（かながわ県民センター11階）

○出席者

伊藤 真木子（青山学院大学コミュニティ人間科学部 教授）

加藤 直樹（（一社）神奈川県専修学校各種学校協会 常任理事）

加茂 圭子（公募委員）

坂田 美保子（（特非）湘南 NPO サポートセンター理事長）

澤岡 詩野（東海大学健康学部健康マネジメント学科 准教授）

志田 淳一（（社福）神奈川県社会福祉協議会地域福祉部 地域課 課長）

為崎 緑（中小企業診断士）

鶴山 芳子（（公財）さわやか福祉財団 常務理事 共生社会推進リーダー）

○議題

1 令和6年度かながわコミュニティカレッジ運営業務報告及び評価について

2 令和7年度かながわコミュニティカレッジ運営業務委託団体選考 第2次審査（総合評価）について【非公開】

○議事内容

議題1「令和6年度かながわコミュニティカレッジ運営業務報告及び評価について」

（県事務局より資料1－1に基づき説明後、受託事業者より1－2に基づき説明）

為崎委員

ご説明ありがとうございました。1年間頑張ってこられたのだと実感いたしました。その中で印象に残ったことは、1つ目は夜間のオンライン講座になると年代層が少し若くなっているところで、やり方によってはより広い年代層が呼び込めるのだと感じました。また、横須賀からの申し込みが多く、受講者も多かったというところで、市の助成があるなど、参加しやすい環境が整えられるということも、多くの人を取り込むことにつながるのだと思いました。やり方を工夫することで、今まで受講していない層の人たちを取り込めるのだと改めて感じました。

2つ目は、これから開催される3月15日の受講生交流サロンでは、受講した方々が立ち上げた活動事業を報告するという非常によい循環になっていると思いました。こういう方たちがさらに講座などをやる立場になっていくと、受講した方が今度は自分たちの得たものを提供していくという循環ができ、非常によいものになると思います。引き続きこのよう

な流れができていくとよいなと思いました。以上、感想でございます。

鶴山委員

1年間ありがとうございました。お疲れ様です。受講者インタビューというのはとても魅力的な方がいらっしゃるのだなという、人に焦点が当てられている感じがして読み物としても面白いと思って拝見しておりました。これについてホームページに掲載されるとありますが、受講生インタビューの目的はコミュニティカレッジの周知、参加の呼びかけということでしょうか。

受託事業者

はい、目的はもちろん周知、参加もそうなのですが、コミュニティカレッジはいろいろな方が受講されておりますので、どういった方がいらっしゃるかというところも知っていただくとともに、敷居がすこし高いと感じていらっしゃる方にも学んでいただくきっかけづくりになればと思っています。

特に、今回のインタビューした発達障がい児地域支援コーディネーター養成講座の修了生は若い男性の方なのですが、保育士をされています。実際に現場で子どもたちと関わっている、資格をもって支援を行っている専門家の方が講座を受講して非常によかったという感想をいただいています。

全く初めての方もそうですし、専門職でお仕事やボランティアなど、資格を持っている方も含めて、学べる場所であるということを周知したく、インタビューに応じていただいたという経緯でございます。

鶴山委員

とてもいい情報提供だと思いました。今おっしゃたように2人にはそれぞれ特徴があるなと思いましたので、ホームページのインタビューの見出しのところそれぞれの特徴を抜き出して紹介すると、講座を選ぶ方が選ぶきっかけになりよいかと思いました。

加茂委員

この2人のインタビューがとても素敵で私も受けたいと思ってしまいました。あと、3月15日開催の受講生交流サロンのもどうやったら私も受けられるだろうかと思ってしまいました。お伺いしたいのは、2人とも受講したきっかけが講座チラシがとなっており、おそらくお母さんやお知り合いの方がチラシをお渡ししたのではないかと思うのですが、このきっかけがわかればもう少し掘り下げて聞きたいです。

受託事業者

新聞記者に学ぶ文章・写真・編集パワーアップ講座のこちらの講座は、お母さんがたまたまこのチラシを公共施設で見つけて、娘にいいかもというところで娘さんに持っていったという経緯でございます。娘さんがライターのような仕事をされているのですが、文章を書くことになかなか自信を持てないというところもあって、「こんな講座があるのだけど、いいんじゃない、どう？」と持ちかけたところ、ぜひ受けたいとすぐに申し込みをされたと伺っております。友達や過去の受講生からこんな講座があったからどうかと紹介されるケースはよく聞いたことはありますが、そのような形で本人ではなくて、周りから情報が入ってくるというところが1つです。

また、発達障がい児地域支援コーディネーター養成講座の高森さんという方は、自分で何かこれから活動していきたいという意欲がある方で、アンテナを高く張っていらっしゃった方なのかなというように思いました。それでたまたまチラシを見て、実践講座であるということもあったため、仕事を休みながら自分のスキルを身につけて、いずれは子どもたちのために何か自分で活動の場を広げていきたいということでした。現在、いろいろなところにチラシを配架しておりますので、そのように情報をキャッチしていただいたということだと思います。

加茂委員

ありがとうございます。チラシを受け取ったお母さまというのは公共施設によくいかれていたのかということと、2点目が会社を休んできてくれる事例があることを伺えてよかったです。ありがとうございます。

坂田委員

発表ありがとうございました。全体的なことを伺いたいのですが、たくさんの方々が受講されていらっしゃるのですけれども、この方々のお住いの場所について統計を取っているようでしたら教えてください。例えば横浜市や藤沢市など分かれば教えていただきたいと思います。

受託事業者

連携講座については講座実施団体が主催しているため把握しておりませんが、主催講座の受講者に関しては半分くらいが横浜市の方です。先ほどもお話をさせていただいたのですが、その次に多いのが今回、横須賀市になりました。申込みではなく受講の人数なのですが、今までですと横浜市の次に多いのが川崎市、そのあとが例えば藤沢市といった地域になるのですが、今回は横浜市が半数で、助成金が出ている横須賀市が2番目に多く、ついで川崎となっています。あとは藤沢であったり、茅ヶ崎であったり、相模原の比較的横浜に近い区の方になどの参加が多い状況になっています。

逆にオンラインの講座は割と横浜からだいぶ離れた小田原や愛甲郡、熱海といったところからの参加が目立ちます。

坂田委員

ありがとうございました。横須賀市の参加者への助成制度が受講のきっかけになっていると実感いたしました。

澤岡委員

引き続き受講生フォローアップのサポートということで、いくつかの団体さんが丁寧にフォローアップしてくださっているというのをご報告いただいたのですが、これってすごいことだなと思って拝見していました。

ここまでいろいろな団体さんがフォローアップに手を挙げてくださっているというのは、何か事務局さんの方から投げかけやこのようにフォローアップするとよりよいですよといったアドバイスなど、相談をされてこれだけの団体さんが手を挙げてやりますということになったのでしょうか。

受託事業者

当初と比べるとだいぶフォローアップは充実していると思います。県の方でも企画提案を募集する、企画書を出していただくときに講座の実施以外にも、講座実施後のフォローアップの実施について記載しており、提案される団体はそこをだいぶ意識をされていると思います。私どもも、フォローアップをしっかりとくださる団体を選んで講座実施を依頼しています。

また、フォローアップの体制で、「例えば講座終了後に講義室を使いたい」、「こういうフォローアップをしたいので受講生の方に案内をしていただけないか」という講座実施団地からの要望につきましては事務局ではできるだけ応えるようにしております。

講座が終わったら終了ではなくて、そのあと必ず何かしら続けていく、繋がっていくには講座実施団体の協力がないと、講座が終わってそれで終了というようになってしまいます。そのようになってしまうのは大変もったいないので、そこは出来る限り時間を作ってフォローし、もしこの会場を使っただけなのであれば、講義室を使用する、講座実施団体さんが行っている活動内容や拠点で活動していただけるように定期的に声を掛けております。

澤岡委員

できればの話ですが、まだフォローアップは面倒くさいとか、意味があるのかなと思っていて団体さんも、もしかしたらいらっしゃるのかなと思います。そのような中で、こういった丁寧なフォローアップをしたことで団体さんにとってもよかったということも聞こえてきたら、それも1つの重要な情報かなと思いますので、そういった声がありましたら、丁寧

に残していただいて、他の団体さんにも共有していただけるとよいのかと思います。

加藤委員

お問い合わせさせていただきたいのですが、募集定員に対して、受講者決定、受講者数、修了相当数でデータが出ているのですが、募集定員に対して受講決定者を増やして実施していただいているところなのではございますが、最終的に8番目のNPO会計講座や18番の大人のひきこもりと発達障がいを考える講座などは修了相当率が63.8%というように、どんと下がってしまうのは何か理由があるのでしょうか。

受託事業者

まずNPO会計講座は平日の午後にオンライン講座で実施しております。そのため、お仕事が入ったり、打合せが入ったりというケースが多いということが1点です。また、オンライン講座についてはYouTubeでアーカイブ配信をしておりますので、オンタイムで見なくても、そのあとで観ること多いということもあります。YouTubeの動画の視聴は出席には入らないために、そのようなことで欠席が多く、修了率が低くなっているというように考えております。

18番の大人のひきこもりの講座ですが、10月、11月の時期で若干、風邪やコロナ、インフルエンザが流行った時期でございます。そのため、体調を崩される方がかなりいらっしゃったことで欠席が多かったことと、こちらは参加しやすいように土曜日の午後の隔週で実施していたのですが、やはり土曜日では予定が入ってしまうケースが多くありました。その2つの理由で修了率がほかの講座と比べて低かったというように考えております。

加藤委員

ありがとうございます。

伊藤座長

予定時間を超過いたしましたので、議題1につきましては以上にさせていただきます。

以上